

つど つく かな
集う、創る、叶える、ふくしまで。

福島イノベーション・コースト構想推進機構

国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」を推進する中核的な機関として、福島県が設立した「福島イノベーション・コースト構想推進機構」。私たちは福島復興再生特別措置法の「重点推進計画」に基づき、みなさまとともにさまざまな取組を行い世界に誇れるふくしまの未来を実現していきます。

産業集積・ビジネスマッチング

- 浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新たなビジネスの立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援



企業立地セミナー



ふくしまらいビジネス交流会

拠点施設の管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営受託
- 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営受託
- 拠点の利活用について県内外にPR



福島ロボットテストフィールド



東日本大震災・原子力災害伝承館

推進機構の 主な取組

教育・人材育成

- 産業界及び研究機関等と連携した高等学校等での教育の実施支援
- 市町村と連携した大学等の教育研究活動支援



イノベーション人材育成
（相馬高校×日本大学工学部）



大学等の教育研究の知見の共有
（鳥獣被害対策シンポジウム）

情報発信

- 県民等への構想のわかりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けた構想の魅力発信



構想WEBサイト



シンポジウム

交流人口の拡大

- 浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 交流人口の拡大に向けた交通環境の改善



浜通り地域等を視察するツアー



見える化キャラバン

福島イノベーション・コースト構想の経過

平成26(2014)年6月

- 「福島イノベーション・コースト構想研究会」報告書取りまとめ
- 「経済財政運営と改革の基本方針2014(骨太の方針)」で構想が初めて明記

平成29(2017)年5月

- 「福島復興再生特別措置法」が改正、構想が法定化
- 福島県が「福島イノベーション・コースト構想推進本部」設置

平成29(2017)年7月

- 一般財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構設立
- 第1回「福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議」(総理出席)

平成30(2018)年4月

- 福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の内閣総理大臣認定

平成31(2019)年1月

- 福島イノベーション・コースト構想推進機構 公益財団法人に移行

令和元(2019)年12月

- 「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」取りまとめ

令和2(2020)年5月

- 福島復興再生特別措置法「重点推進計画」の内閣総理大臣変更認定



福島イノベ機構

公益財団法人
福島イノベーション・コースト構想推進機構

〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階 <https://www.fipo.or.jp>

公式Web



Instagram



Facebook



Hama Tech Channel



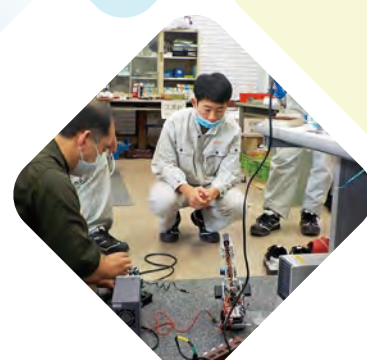
2021.3 協力：福島県・復興庁・経済産業省

※本パンフレット掲載の情報は、2021年2月28日現在のものです。

浜通り地域等の産業基盤を構築する国家プロジェクト

福島イノベーション・ コースト構想

Fukushima
Innovation Coast
Framework



各分野の研究拠点を活用し、 先端産業の集積を推進しています。

福島イノベーション・コースト構想 主要プロジェクト

プロジェクト1 国内外の英知を結集した 技術開発



廃 炉



廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「櫛葉遠隔技術開発センター」



廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「廃炉環境国際共同研究センター」



放射性廃棄物の処理・処分に向けた分析研究を担う「大熊分析・研究センター」

詳しくは
5～6ページへ

プロジェクト2 福島ロボットテストフィールドを中核に ロボット産業を集積



ロボット・ドローン



陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド



2021年にロボットの技術やアイデアを競う「ワールドロボットサミット」を開催



ロボット・ドローンの実証試験や操縦訓練の場として、浜通り各地を仲介

詳しくは
7～10ページへ

プロジェクト3 先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ



エネルギー・ 環境・リサイクル



浜通り地域等全体において、再生可能エネルギーの計画的かつ円滑な導入促進を図るとともに、太陽光発電や風力発電が連系する共用送電線を整備して再生可能エネルギーの導入を加速化



燃料電池自動車等の水素モビリティの普及に対応する水素ステーション

詳しくは
11～12ページへ

プロジェクト4 ICTやロボット技術等を活用した 農林水産業の再生



農林水産業



ICTを活用した農業モデルの確立へ向けたネギなどの業務加工用野菜の栽培



ブロックリー大規模栽培の省力化へ向けた画像診断技術による選別自動収穫ロボットの開発



栽培漁業の推進や資源管理の高度化等の新たな試験研究に取り組む「水産資源研究所」

詳しくは
13～14ページへ

プロジェクト5 技術開発支援を通じ 企業の販路を開拓



医療関連



浜通り地域等の企業等への技術移転やコンサルティング支援等により医薬品関連産業の集積を目指す「医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター」



医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設「ふくしま医療機器開発支援センター」



企業へのマッチング、コンサルティング支援による医療機器分野への参入促進や、更なる技術開発への支援など、事業化への積極的な支援を実施

詳しくは
15ページへ

プロジェクト6 “空飛ぶクルマ”の実証や 関連企業を誘致



航空宇宙



航空宇宙関連産業の技術交流や商談、普及啓発を目的に開催している「航空宇宙フェスタふくしま」

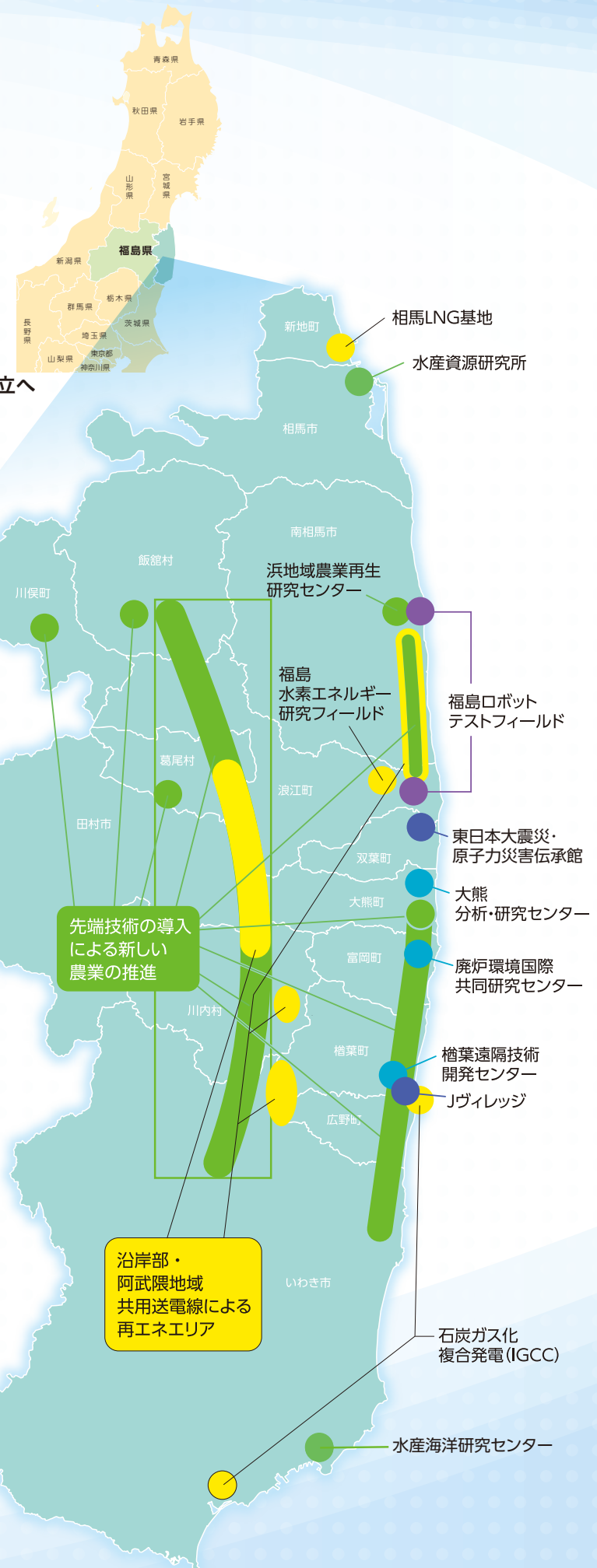


(株)IHI相馬事業所（航空エンジンや宇宙開発関連機器などの部品の製造拠点）

詳しくは
15ページへ

「福島イノベーション・コースト構想」とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。

Fukushima Innovation Coast Framework



主要プロジェクトの具体化を進めるとともに 実現へ向けた基盤整備に取り組んでいます。

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて

3つの取組の柱

①あらゆるチャレンジが可能な地域 ②地域の企業が主役 ③構想を支える人材育成

新たな産業基盤の構築

拠点の整備及び研究開発の推進



【廃炉】

- ・廃炉研究拠点の活用
- ・廃炉に向けた研究開発、人材育成



【ロボット・ドローン】

- ・福島ロボットテストフィールドを中核とするロボット産業の集積
- ・ロボット・ドローンの開発・実証



【エネルギー・環境・リサイクル】

- ・先端エネルギー関連産業の創出
- ・環境・リサイクル産業の集積と事業実証



【農林水産業】

- ・ICTやロボット技術を活用した農林水産業の実践



【医療関連】

- ・医療関連産業の集積による地域課題の解決



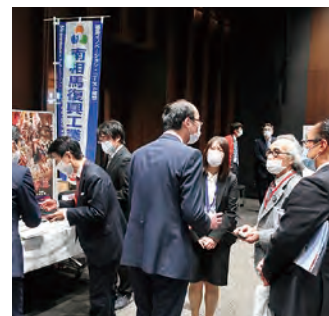
【航空宇宙】

- ・航空宇宙産業への新規参入支援と技術の高度化



実現に向けた取組1

産業集積



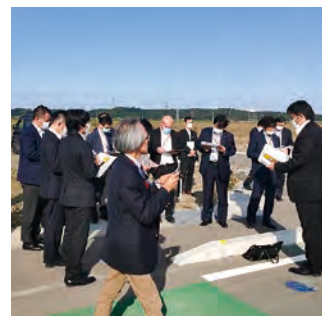
全国唯一の優遇制度や立地環境を現地視察



事業化を目指す企業に対する各種コンサルティング(伴走支援)販路拡大検討に向けた関係者ヒアリング

詳しくは 17～20ページへ

企業誘致と地域内外企業のマッチングを推進



PRするための企業立地セミナー、アーを実施



異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指して設立した「福島イノベ倶楽部」

廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の各分野の具体化を進めるとともに、その実現へ向けた産業集積や人材育成、交流人口の拡大、生活環境の整備、情報発信など多岐にわたる基盤整備に取り組んでいます。

Fukushima
Innovation Coast
Framework



実現に向けた取組3

詳しくは

23ページへ

交流人口の拡大

地域と連携して新たな魅力を創造



浜通り地域等の復興の状況と構想の取組について「来て」「見て」「知って」いただくためのツアー



地元住民の構想への理解を深めるための「見える化セミナー」を実施



実現に向けた取組4

詳しくは

24ページへ

生活環境の整備

安心な暮らしに必要な環境を整備



2020年3月にJR常磐線が全線運転再開



2020年8月に道の駅なみえが浪江町にオープン



実現に向けた取組2

詳しくは

21～22ページへ

教育・人材育成

浜通り地域等の未来を担う若い力を育てる

大学



大学・高専の浜通り地域等における教育研究活動の成果を共有・情報発信することを目的に開催した「復興知」成果報告会



浜通り地域等の教育研究活動で得た知見を体系化した東京大学が作成した教科書



高校・
小中学校



大学、研究機関、イノベ関連企業等と連携し、イノベ構想を牽引する人材の育成(原町高校×いわき海星高校)



地域に対する“思い”を育み、イノベーションを起こす原動力となる最新技術等の学習を推進(ふくしまスーパーサイエンスクール)



実現に向けた取組5

詳しくは

25～26ページへ

情報発信

構想の認知度アップで参画を促進



複合災害の記録と記憶を教訓として将来に引き継ぐ施設「東日本大震災・原子力災害伝承館」



WEBサイト等により構想の取組を広く発信



国内外の英知を結集した技術開発

廃 炉

浜通り地域等の復興に必要不可欠な廃炉を進めるため、国内外の英知を結集し、研究開発と人材育成を進めるとともに、取組の効果を産業面にも波及させ、浜通り地域等に産業の集積を図ります。

原子炉建屋内部の作業計画の検討・訓練等を可能にする

楢葉遠隔技術開発センター(楢葉町)

日本原子力研究開発機構では、廃炉作業等に必要技術開発を進めています。その中の一つとして、福島第一原子力発電所の現場にいる感覚を、VR技術を用いて体験できるシステムを提供しています。このシステムを通じて、原子炉建屋内部の作業計画の検討・訓練等を行うことが可能です。

廃炉を進めるための分析を行う

大熊分析・研究センター(大熊町)

放射性物質分析・研究施設第1棟は、廃炉を進めるために、事故で発生したガレキ類、焼却灰、水処理二次廃棄物等の分析を行う施設です。2021年6月から運用開始予定です。



国内外の英知を結集する拠点

廃炉環境国際共同研究センター(富岡町)

国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築して、原子力発電所の廃止措置を推進します。



取組事例紹介

廃炉ロボットシステムを応用した技術開発

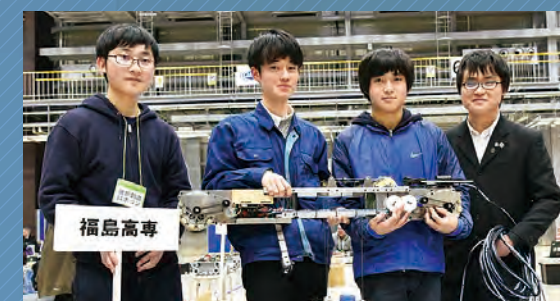


作業従事者の子どもたちが描いた絵でラッピングしたバスを、遠隔操作室として利用しています。

(株)エイブルは、福島第一原子力発電所の長さ120mもの排気筒の解体工事を、遠隔操作によるロボットシステムを利用して行っています。これまで蓄積してきた知見を活かし、廃炉における応用的な作業を担うだけでなく、ロボット活用の分野をますます広げています。

廃炉を担う人材育成

廃炉創造ロボコン



廃炉をイメージしたロボットの製作を通じて、学生の廃炉に関する興味の喚起と創造性の涵養を図ります。オンライン開催となった第5回では、福島工業高等専門学校が最優秀賞を受賞しました。(写真:2019年開催の第4回)

県内企業の廃炉関連産業参入を支援

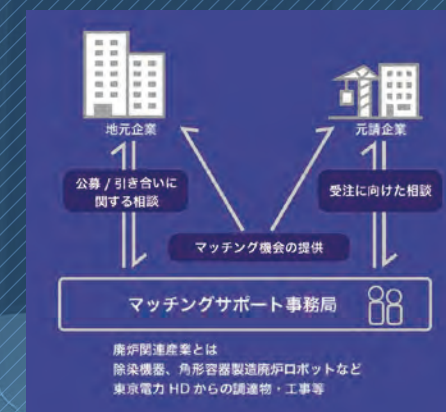
2020年7月にサポート事務局を新設し、廃炉関連産業への参入を希望する県内企業を対象に、元請企業とのマッチング機会の提供や廃炉の現状を知るスタディツアーなど各種支援を実施しています。



マッチング会



廃炉スタディツアー



マッチングフロー図

廃炉関連産業とは
除染機器、角形容器製造廃炉ロボットなど
東京電力HDからの関連物・工事等



最先端のロボット開発・実証の地

ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを始め、「浜通りロボット実証区域」では、災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活用が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証試験を積極的に誘致しています。



○1人乗りeVTOL “teTra Mk-3”の飛行試験[テトラ・アビエーション(株)]
外乱に対する機体の応答性能確認や、自動飛行システムの動作確認等を、屋内試験場および緩衝ネット付飛行場で実施しました。



○スクーバ潜水訓練(福島県警察機動隊)
災害現場、水難事故等における人命救助及び捜索活動のため、スクーバ潜水技能の向上を目的とした潜水訓練を屋内水槽試験棟で実施しました。

ドローン等の活用促進に関する協定締結



○災害対応におけるドローン等の活用促進
消防庁、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構は、ドローン等の活用促進に関する協定を締結しました。



○福島県総合防災訓練
県内の消防、警察、自衛隊、海上保安庁などが参加し、台風災害やサリンなどの化学物質流出を想定した訓練を行いました。

震災以降
浜通り地域等へ
55のロボット
事業者が
新規進出

	進出事業者	新規参入の 地元企業者数	合計事業者数
ドローン	24	8	32
固定翼 無人航空機	3	0	3
空飛ぶクルマ	2	0	2
自動走行	4	1	5

東日本大震災以前はなかったロボット事業者が、55事業者の新規進出、地元14事業者の新規参入により、浜通り地域等にロボット事業者の集積が着実に進んでいます(2021年1月現在)。

	進出事業者	新規参入の 地元企業者数	合計事業者数
災害対応・廃炉ロボ	10	1	11
農業用ロボ	2	0	2
産業・業務用ロボ	3	4	7
介護・リハビリ・ コミュニケーション	6	0	6
水中ロボ	1	0	1

取組事例紹介

大学の取組



会津大学は、福島ロボットテストフィールド内研究室に入居し、ロボットに関する研究開発及び産学連携の推進に加え、福島県のロボット産業及び人材の育成活動を行っています。

地元のサポート体制



(株)ゆめサポート南相馬は、地元の産業支援機関として入居及び利用企業と地元企業とのマッチングなど、新しいビジネスに繋がる支援を行っています。

地元企業の取組



(株)eロボティクス、(株)東日本計算センターは、気象観測に向けた高高度3次元隊列飛行システムの開発を行っています。今後は風況調査、広域空撮・点検、防災分野などへの展開を予定しています。

INTERVIEW インタビュー 株式会社プロドローン

最先端のドローン開発環境で 世界のドローンメーカーを目指す



株式会社プロドローン
常務取締役 執行役員CRO
いち はら かず お
市原 和雄さん

大型運搬ドローンの開発が主要事業です。機体だけではなくソフトウェアの開発も行っており、ハードとソフトを組み合わせ、クライアントのニーズや社会課題に応えたソリューションを提供しています。

ドローンを安全に飛行させる一つのアイデアとして、クラウド上でドローンを管理する「PROFLYER(プロフライヤー)システム」を提案しています。クラウド上にある仮想ドローンを実行すると、本物のドローンが実際に運搬するというものです。ドローンの離陸時や着陸時、異常事態発生時などに、経験値の高い人間が介入し、操作監視をする。いずれはオペレーションセンターを全国に3カ所設け、一人のオペレーターが全国各地で飛行する複数の産業用ドローンを遠隔操縦できれば、と考えています。

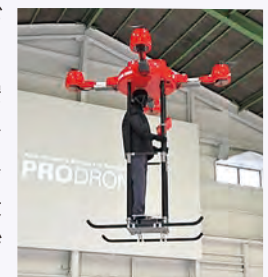
近年、大規模な自然災害が相次ぎ、防災・減災の必要性が高まるなか、ドローンを使った緊急物資の輸送に期待が寄せられています。自治体でも災害対応にドローンを使いたいと思っていますが、運用面で不安があるようです。そんなときにPROFLYERシス



ガソリンエンジンを搭載したシングルローター型ドローン

テムが活躍します。

福島ロボットテストフィールド(RTF)の研究棟に入所して開発環境は良くなり、研究の質があがっています。建物に衝突しないドローンを開発するために、建物のギリギリで操作することもありますし、衝突した場合のデータを得るため、安全対策を取った上ですが、やむを得ず衝突させる場合もあります。福島RTFでは衝突や墜落など、極限の状況を再現したいろいろなチャレンジができるんです。そんなことができるのは日本中探してもここだけです。



対話型救助用パッセンジャー
ドローン「SUKUU」



世界に類を見ない一大開発実証拠点

ロボット・ドローン

[福島ロボットテストフィールド(RTF)]

陸・海・空のフィールドロボットに対応する4つのエリアからなる世界に類を見ない開発実証拠点「福島ロボットテストフィールド」。この施設を中核として、浜通り地域等へのロボット産業の集積を図ります。

滑走路

屋内水槽試験棟

研究棟

試験用プラント

風洞棟

試験用橋梁

試験用トンネル

世界中からロボット研究者がやってくる！

2021年ワールドロボットサミット
開催予定

国際的なロボット競技会である「ワールドロボットサミット」のうち、インフラ・災害対応カテゴリーを福島ロボットテストフィールドで開催します。



取組事例紹介

ハイブリッドドローンの研究開発

福島ロボットテストフィールドの研究室入居者である(株)ロボデックスは、今注目されているクリーンエネルギーである水素を利用した燃料電池を搭載したドローンで、長時間飛行可能なドローンの研究開発を行っています。



陸・海・空の使用環境を再現

福島ロボットテストフィールド

南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」と、浪江町棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を設けています。

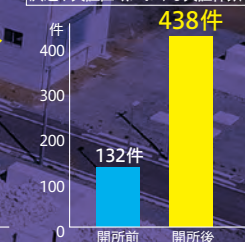
福島ロボットテストフィールドのデータ

開所前 ~2018年7月20日
開所後 2018年7月20日~2021年1月31日

来訪者数



浜通り実証区域における実証件数

あらゆる災害環境、老朽化を再現
インフラ点検・災害対応エリアダム、河川、水没市街地、港湾等を再現
水中・水上ロボットエリア国内最大の飛行空域を備える
無人航空機エリア

❖ 株式会社人機一体

人型重機「人機」がつくる世界とは

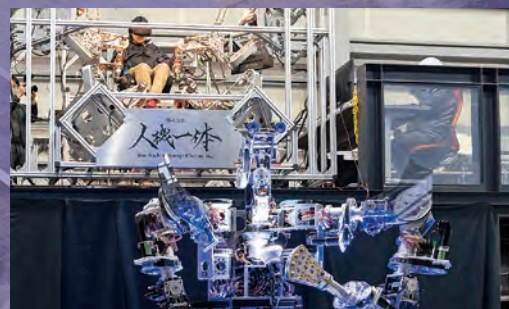


株式会社人機一体
代表取締役 社長
かね おか
金岡博士

人機一体社のミッションは、先端ロボット工学技術の社会実装です。人型重機「人機」の実用化に取り組んでいます。

人機は、例えば土木建築、物流運搬、災害復興などでの「苦役」を解消するために用いられます。生身による力仕事(重筋作業)や、暑い・寒い・熱い・冷たい・臭い・汚い・有害・有毒といった環境での仕事は、これだけ科学技術が進歩しても、未だに「誰か」に押し付けざるを得ないのが現状です。人機一体社は、これを先端ロボット工学技術で解決します。

社会的にはAI、IoT、ICTがフォーカスされやすいですが、ロボットの社会実装には身体拡張技術としての「物理的な実体」が不可欠であり、その物理的実体の象徴が「人機」です。我々は、人型重機の圧倒的なインパクトを以て、先端ロボット工学技術の社会実装を実現します。



開発基盤エリア



福島ロボットテストフィールドの中核となる研究棟の「研究室」には、全国から20の大学や企業等が入居しています(2021年2月現在)。また、研究棟内に併設する福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センターは、技術相談・設備使用(加工機器、分析機器等)・試験分析など、企業に寄り添った支援を行っています。



先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・環境・リサイクル

再生可能エネルギーを核とした産業の育成・集積を図り、地域経済の復興・再生に取り組んでいます。
太陽光パネルや石炭灰等の先進的なリサイクル技術開発の取組等を推進しています。

世界最大級の再エネ水素エネルギーシステム

福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)

浪江町では、天候によって変動する太陽光発電の電力を水素に換え、再生可能エネルギーを有効活用する大規模な実証が行われています。また、生み出された水素は、県有施設等に設置された燃料電池へ供給されるとともに、東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な場面で利活用の検討が進められています。

取組事例紹介

水素で発電する燃料電池バスを導入

新常磐交通(株)では、トヨタ自動車(株)の燃料電池バス「SORA」を東北では初めて導入し、2020年4月から運行を開始しています。「SORA」は、水素と空気中の酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーでモーターを回し走行しています。



水素利用の先進技術開発拠点

(株)IHIは、相馬市内にCO₂フリー水素を活用した研究施設「そうらぼ」を開所し、将来の水素社会を見据えた水素利用の実証試験などを進めています。



スマートコミュニティの構築

新地エネルギーセンターでは、相馬LNG基地からの天然ガスを活用してJR新地駅周辺施設への熱電供給を行っています。



共用送電線の整備

福島送電(株)では、避難地域等における風力発電や太陽光発電等の再生可能エネルギーの大量導入を促進するため、阿武隈山地・沿岸部に全長80km超に及ぶ共用送電線を整備しています。



都路変電所(田村市)

ドローンを活用した風車メンテナンス技術開発



(株)福島三技協は、人が行っていた大型風力発電施設のメンテナンスについて、ドローンを使った安全・確実・スピーディーなメンテナンス技術の開発に取り組んでいます。これまで福島ロボットテストフィールドにて性能試験を行うとともに、風車実機での試験を進めています。

ふくしま再生可能エネルギー産業フェア



再生可能エネルギー関連産業の育成・集積に向けて、技術・情報の発信と商談・交流の場を提供することを目的に毎年開催しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で開催し、著名な講師などによるセミナーを始め、大手企業とのマッチングイベントなど多彩な催しを実施し、多くの方々にご来場いただきました。

不燃性廃棄物の再資源化事業



地元企業を中心とする民間企業8社が協同し、設立された(株)相双スマートエコカンパニーでは、2020年10月大熊町に不燃性廃棄物処理施設が完成し、帰還困難区域の不燃性廃棄物の再資源化に取り組んでいます。



ICTやロボット技術等を活用した
農林水産業の再生

農林水産業

ICTやロボット技術等の開発・実証を進めるとともに、これらの先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実施し、浜通り地域等の農林水産業の復興・再生を進めています。



周年栽培・周年出荷に取り組む

複合環境制御施設によるイチゴ栽培

大熊町では、省力化、効率化を図るため、複合環境制御システムを導入したイチゴの太陽光利用型植物工場を整備しました。(株)ネクサスファームおおくまが周年栽培・周年出荷に取り組んでおり、2019年8月に初出荷されました。GAPによる生産管理と非破壊式放射能測定による全量検査を実施し、安全なイチゴを生産しています。



取組事例紹介

先端技術を活用した農産物生産と規模拡大

(株)紅梅夢ファームは、農業分野の労働力確保が難しい中、ロボットトラクタや食味・収量測定コンバイン、ドローン等の先端技術を取り入れて経営の効率化を図り、高レベルで均質な農産物の生産と規模拡大をかなえる技術体系の実証に取り組んでいます。



地域と連携した企業の農業参入

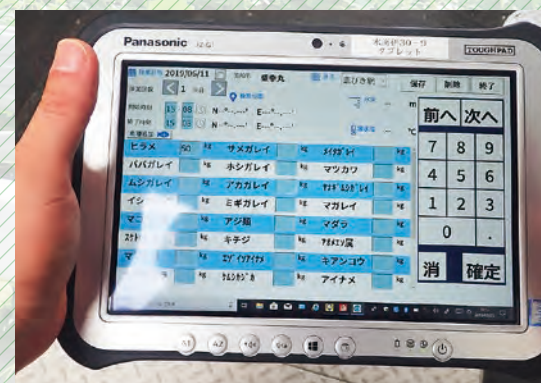
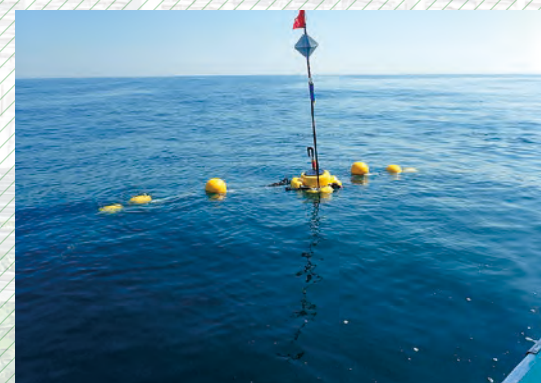
植葉町では、(株)福島しろはとファームが新規参入し、大規模なさつまいも栽培に取り組んでいます。2020年10月には、最大1,260トン保管できる国内最大級の貯蔵施設が完成しました。



取組事例紹介

ICT 技術を活用した 漁業操業支援技術の開発

漁業の操業効率化等を支援するため、洋上ブイによるリアルタイム水温測定・発信や、タブレット端末による漁獲情報収集システムの開発を進めています。



ICT 技術を活用した 和牛の肉質診断技術の開発

県産和牛の価格向上と肥育コストの削減のため、全国に先駆けて、成育途中でも高い精度で枝肉の肉質が診断できる技術の開発に取り組んでいます。



新たな花き栽培

川俣町では、近畿大学と連携して、土壌の代わりにポリエステル媒地と液体肥料を活用してアンスリウムの栽培を行っています。2019年8月より本格的に出荷が再開されました。



見て触れて体験できる展示会の開催

浜通り地域等の農林漁業者や就農に興味のある学生等を対象に、農林水産業の取組に関するセミナーや、最先端技術を実際に見て触れて体感できるフェアを開催しています。



直進アシスト付き
田植機

企業の農業参入支援

農業へ参入意向のある企業の要望に応じ、市町村やJA等と連携して、地域の営農や農地の状況等の随時現地案内や、参入に向けた支援、フォローアップを行っています。





技術開発支援を通じ
企業の販路を開拓

医療関連

高齢化や医療・介護人材の不足が進む浜通り地域等において、医療関連産業の集積を図るとともに、企業等の新規参入を促進しています。



“空飛ぶクルマ”の実証や
関連企業を誘致

航空宇宙

航空宇宙産業の育成・集積に向けて、参入する企業の支援や産業を担う人材育成に取り組んでいます。

航空宇宙産業に挑戦する人材を育てる

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま

次世代を担う子どもたちに夢を与えるとともに科学への関心を高め、将来の航空宇宙産業やふくしまの復興・再生へ挑戦する人材を育てています。会場内では、県内企業が機器の開発に大きく関わっているはやぶさ2の実物大模型を展示しました。

取組事例紹介

蛍光浸透探傷装置導入セミナー開催

航空機部品の検査のために広く使用される浸透探傷検査について、その基礎的な知識を身につけるため、検査の概要に関する講義及び実際の使用方法のデモンストレーションを行いました。



取組事例紹介

医療関連分野の販路開拓支援

医療機関・高齢者福祉施設等の現場ニーズを反映した製品の導入や改良等の取組を支援しています。原発事故の影響による高齢化の進行や人手不足などの課題を抱える浜通り地域等において先駆的なモデル事業として実施し、医療関連産業の集積につなげています。



介護ロボット「ふくちゃん」[富士コンピューター(株)]

メディカルクリエーションふくしま

医療機器関連メーカーと地域製造業・大学との技術交流の場として、地域製造業が得意とする製造技術の展示と医療機器関連メーカーによる最新医療機器の展示を同時に行い、研究開発担当者・エンジニア間の活発な技術交流によって、新技術開発、新商品の創出を促進しています。



INTERVIEW インタビュー

銀座農園株式会社



銀座農園株式会社
代表取締役
いいむら かずき
飯村 一樹さん

— テクノロジーで農業の未来を豊かにする —

AIとロボットを活用したスマート農業ソリューションを開発提供しています。

いま日本では少子高齢化が進み、人に頼る農業は限界にきています。これからはロボットを含め人に頼らない農業をしていかなければ日本の農業は継続しない、という危機感をもって開発を進めています。



FARBOT™ (ファーブット)

現在、AIを活用した「FARBOT™ (ファーブット)」というロボットを農業者に提供して農業のデータ化を進めています。FARBOT™ はデータ収集以外に物の搬送もでき、果樹収穫ロボットです。アタッチメント機能を開発しているので、将来的には農業散布や収穫作業も自動で行えるようにして、農家の右腕になる存在にしたいと思っています。

世界的にみると人口が爆発的に増えていますので、食料生産に対するニーズは日本に限らず全世界にあると思っています。

現在、JAXAのプロジェクトに参画し、月面での食料生産のロボットを開発しています。これまでに蓄積した技術を活用して、宇宙でチャレンジしたいと思っています。月面でできるものは地球のあらゆる地域でも食料生産ができるという証になる、ということを考えて取り組んでいます。

福島県はロボット関係の事業者が多い地域ですので、困ったことがあればアドバイスをいただける、そういう環境は素晴らしいと思っています。

INTERVIEW インタビュー

株式会社井部製作所



株式会社井部製作所
代表取締役
いべ よしのり
井部 良則さん

— 熱い思いと高い技術力を携え福島へ —

本社は千葉県山武市で精密機械部品の機械加工、プレス加工をしており、2017年には南相馬工場を開設し、半導体製造部品等を製造しています。

被災地復興のため力になりたいという思いがあったほか、福島イノベーション・コースト構想が掲げ

る医療機器や航空宇宙関連、ロボット産業は、まさに弊社が力を入れていきたい分野で事業の拡大を見込めたことや、常磐自動車道を使えば工場のある千葉まで4時間ほどで到着するなど、交通の便が良かったことが進出の決め手の一つでした。

CAM/CADを使った5軸加工や精密部品の特殊加工が弊社の強みです。半導体をつくるためにシリコンの塊を薄く切る必要があるのですが、最大で800ミリ、厚さ0.1ミリのステンレス製の特殊なカッターを製造できるのは日本では弊社だけです。

こうした強みを生かして、今後は、航空宇宙分野にとどまらず、医療分野では人工弁や内視鏡の先端の製造に取り組んでみたいですね。

また、南相馬市がロボット産業に力を入れていますし、福島ロボットテストフィールドも近くにあるので、何かしら協力ができたらと考えています。



大型工作機械



日本に数台しかない航空機部品の難削材加工をする
MAKINO製5軸マシニング「T1」

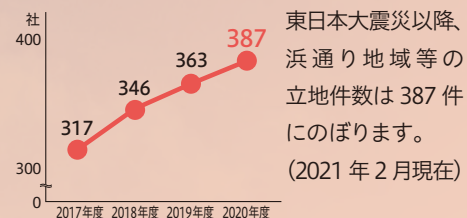


企業誘致と地域内外企業の事業化を支援

産業集積

浜通り地域等における新たな産業集積の実現と既存産業の復興再生に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図るとともに、進出企業等と地元企業の交流、ビジネスマッチングを促進しています。

多くの企業が浜通り地域等に進出



浅野燃系(株)(本社:岐阜県)

双葉町中野地区復興産業拠点に、高吸水性タオルの新ブランド「スーパーゼロ双葉」を立ち上げ、本社工場の2倍超となる月4万キログラムの生産を目指します。併設の店舗などで販売も行います(2022年7月操業開始予定)。



(株)アイリスプロダクト(本社:宮城県)

南相馬市復興工業団地に、人工芝、脱酸素剤、建材用平板・波板等の集合型工場建設を計画しています(2022年3月操業開始予定)。



豊通リチウム(株)(本社:檜葉町)

檜葉南工業団地に車載用2次電池等に用いられる水酸化リチウム精製工場建設を計画しています(2021年上期の操業開始予定)。



(株)一路(本社:宮城県)

浪江町藤橋産業団地に本社機能と委託工場を移転し、土木資材の物流拠点となる倉庫業及び3Dプリンターを使った遮水シートを製造しています(2020年6月より操業開始)。



(株)宮田運輸(本社:大阪府)

富岡産業団地に、双葉郡全体の物流環境への貢献が期待される物流・運輸拠点の建設を計画しています(2021年度操業開始予定)。



(株)ソーカ(本社:山形県)

新地南工業団地に、中子形状の鋳物製造工場を建設を計画しています(2022年8月操業開始予定)。

取組事例紹介

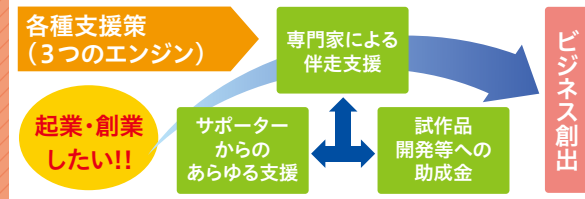
企業誘致に向けた取組



浜通り地域等の優れた立地環境をPRする企業立地セミナーを東京で開催しています。また、進出検討企業を対象とした産業団地、商業施設、医療機関等を視察するツアーも実施しています。

Fukushima Tech Create

浜通り地域等で起業・創業を目指す企業等に対し、専門家を活用した伴走支援によるアイデアの具現化、市場調査や試作品開発などの助成金、サポーターによる実証場所の提供等により、浜通り地域等に新たなビジネスを創出します。



福島イノベ倶楽部

異業種間の連携、地域間の連携、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指す異業種交流のための場として「福島イノベ倶楽部」を2020年2月に設立し、視察会や研修会等の実施を通して会員間の交流を促進しています。



新たな取引先との出会いの創出



浜通り地域等の企業等が、新たに進出した(しようとする)企業や研究開発を進める企業等と交流・商談できる機会として「ふくしまみらいビジネス交流会」を開催しています。

地域復興実用化開発等促進事業



構想の重点分野(ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、廃炉、航空宇宙)について、地元企業との連携等により地域振興に資する実用化開発等を支援しています。

事業化を目指す事業者を伴走支援



「地域復興実用化開発等促進事業」の採択企業(約130社)等を対象に、ビジネスモデルや販売戦略、想定顧客リストの作成、各種マッチング、資金確保、特許出願をはじめとした戦略的な知的財産保護等、各企業等の課題解決に向けた支援を実施しています。

実現に向けた取組3



地域と連携して新たな魅力を創造 交流人口の拡大

避難により人口が減少した浜通り地域等の交流人口の拡大や地域と連携した新たな魅力創造などに取り組んでいます。

浜通り地域等を視察するツアー

来訪者のニーズに合わせたオーダーメイド視察ツアーや、構想に関連するテーマを設定したモデルツアーを実施し、地域や構想についての理解の深化を進めています。

[写真：檜葉遠隔技術開発センター（檜葉町）を視察]



取組事例紹介

見える化計画

県民の皆さんに構想を身近に感じていただくため、構想に係る取組とその成果を発表するセミナーを実施しています。また、浜通り地域等のイベントに参加し、先端技術のデモンストレーションや体験を通じ、構想のPRを行っています。



見える化セミナー



見える化キャラバン

福島イノベ構想 クイズ&スタンプラリー

多くの方に対して、浜通り地域等を訪問していただき、構想を分かりやすく伝えるために浜通り地域等の集客施設に設置している情報発信モニュメントを巡り、構想に関するクイズに挑戦するスタンプラリーを実施しました。



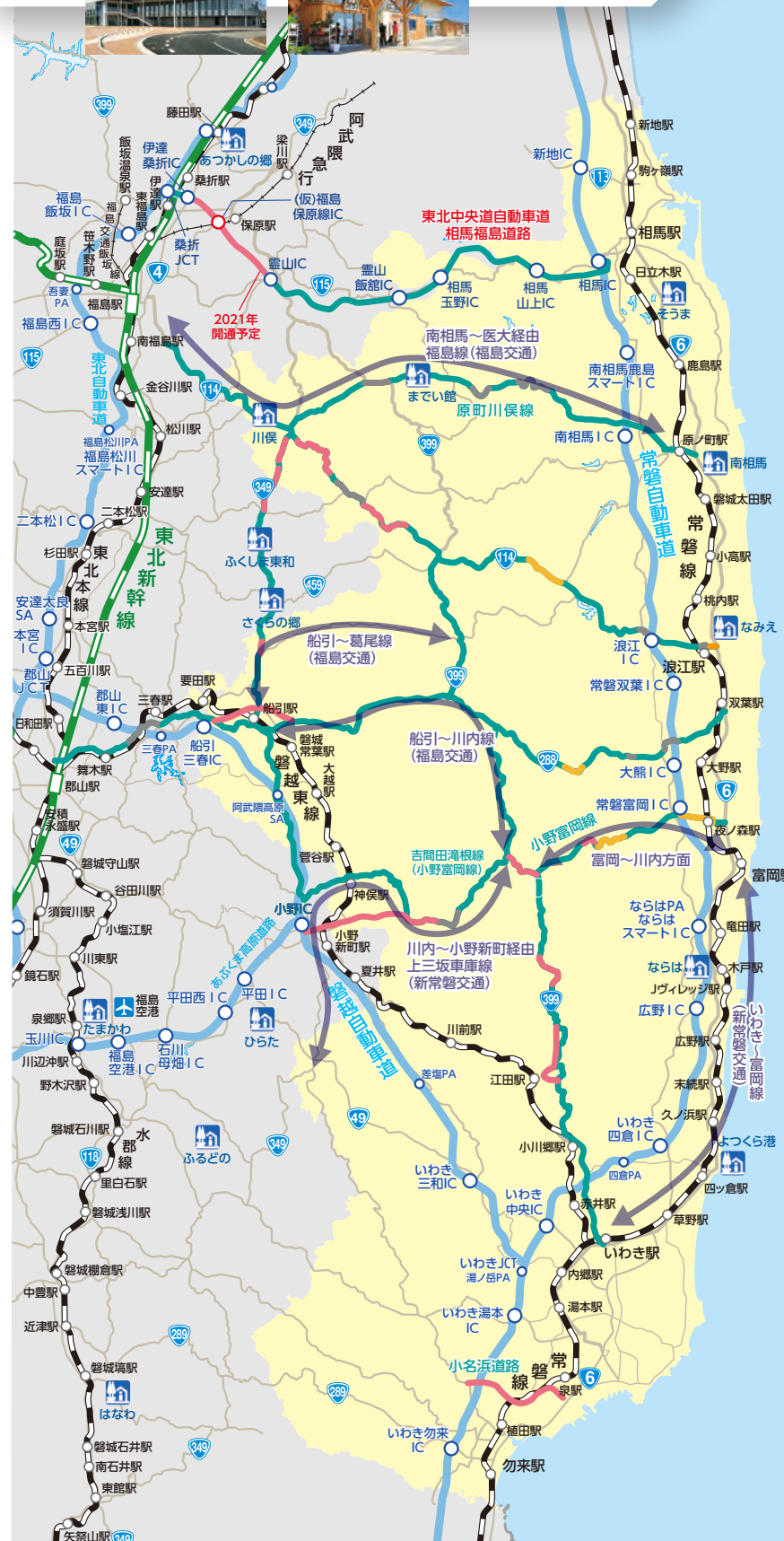
実現に向けた取組4



安心な暮らしに必要な環境を整備

生活環境の整備

東北中央自動車道、常磐自動車道を始めとする公共インフラ等の充実強化を図り、生活環境の整備を着実に進めています。



整備が進む公共インフラ

東北中央自動車道

- 2017年 3月 相馬山上IC—相馬玉野IC間 開通
- 2017年11月 福島大笹生IC—米沢北IC間 開通
- 2018年 3月 相馬玉野IC—霊山IC間 開通
- 2019年12月 相馬IC—相馬山上IC間 開通



福島民報社提供

- 2020年 8月 伊達桑折IC—桑折JCT間 開通
- 2021年 5月 霊山IC—伊達桑折IC 開通(予定)

常磐自動車道

国では、いわき中央IC—広野IC間の4車線化に着手し、令和3年までの完成を目指します。

- 2019年 3月 ならはスマートIC 開通
- 2019年 3月 大熊IC 開通
- 2020年 3月 常磐双葉IC 開通



福島民友新聞社提供

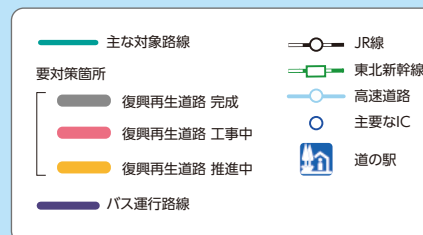
JR 常磐線

- 2017年 4月 浪江駅—小高駅間 運転再開
- 2017年10月 竜田駅—富岡駅間 運転再開
- 2020年 3月 富岡駅—浪江駅間 運転再開により 全線開通



「福島ロボットテストフィールド⇄福島」開通！

2020年1月から、東北アクセス(株)が運行する「南相馬⇄福島」線の一部のバスが、福島ロボットテストフィールドに乗り入れました。福島方面から福島ロボットテストフィールドへのアクセスが便利になりました。





構想の認知度アップで参画を促進

情報発信

構想の認知度を向上させ、参画を促進するためのさまざまな情報発信を行っています。

複合災害を知る、学ぶ（展示エリア）

震災前から震災当時、現在を通じて、複合災害がもたらしたものや、その後の過程を学ぶことができます。



東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)

福島県が経験した地震・津波及び原子力災害という未曾有の複合災害からの経験と教訓を後世に継承し世界と共有する施設です。原子力災害を中心とした資料を収集・保存し、展示、教育・研究・研修に生かしながら、防災について考えます。

取組事例紹介

構想を総合的に発信するシンポジウム

構想の進捗状況や復興に対する波及効果等について、幅広い層への認知を促進するとともに、本構想への理解を深化させることを目的としてシンポジウムを開催しています。



各種情報発信

幅広い年齢層に構想を理解していただくため、構想ポータルサイトやHama Tech Channel等のWEBや動画、各種SNS等にてわかりやすく情報発信を行っています。



3 県民の想い

証言や思い出の品などの展示を通して、故郷の変化に対する県民の想いを伝えます。



プロローグ

震災前の地域生活から複合災害を経て、復興に向かう歩みを7面巨大スクリーンで表現。



1 災害の始まり

震災前の平穏な日常が複合災害により大きく変化した状況を時系列でたどります。



4 長期化する原子力災害の影響

長期化する原子力災害の影響への対応を解説や資料を通して学びます。



5 復興への挑戦

県民や行政が新しいまちづくりに挑戦する情報を発信し、福島未来を考えます。



2 原子力発電所事故直後の対応

原子力発電所事故直後の対応や記録を後世に教訓として継承します。

複合災害の話を聞く、共感する



語りべ講話により複合災害を経験した方々の生の声を聞き、当時の追体験ができます。

被災地へ行く、体感する



津波や原子力災害で被災した施設や復興の状況を見て、学ぶためのツアーを行います（オプション）。

複合災害を考える、教訓を得る



来館団体のニーズを踏まえ、震災・防災に関係した様々な研修を提供します（オプション）。